

**日本のひなた宮崎 障スポ（第26回全国障害者スポーツ大会）リハーサル大会
個人競技参加申込書（様式2-1～7）記入要領**

1 参加申込に当たって

本大会は、障がいの種類や程度に応じた障害区分を設け、参加可能な競技や種目を定めています。申込者の障がいの状況を確認し、記入してください。（「〈別表1〉競技・種目および障害区分」を参照。）

2 記入する時の注意事項

- (1) 当記入要領のほか、記入例を参考に記入すること。
- (2) 黒ボールペンを使用し、文字は楷書で、数字はアラビア数字（0、1、2、…）で正確かつ丁寧に記入すること（特に氏名は大きくはっきりと書くこと）。
- (3) 出場できるのは、次の7競技のうち1競技のみ
 - ①陸上競技（身体障がい、知的障がい）
 - ②水泳（内部障がいを除く身体障がい、知的障がい）
 - ③アーチェリー（視覚障がいを除く身体障がい）
 - ④卓球（内部障がいを除く身体障がい、知的障がい、精神障がい）
 - ⑤フライングディスク（身体障がい、知的障がい）
 - ⑥ボッチャ（身体障がい）
 - ⑦ボウリング（知的障がい）
- (4) 「個人競技参加申込書（選手配付用）」は競技ごとに7種類に分かれています。選手1名につき、出場を希望する競技の申込書を1枚使用してください。

競 技	様 式	備 考
陸上競技	様式2-1	必ず控えを取るようになしてください。 各参加申込書は大会ホームページからもダウンロードできます。 参加資格審査においては、必要に応じて、選手の情報等の照会を行います。
水泳	2	
アーチェリー	3	
卓球	4	
フライングディスク	5	
ボッチャ	6	
ボウリング	7	

(5) 申込書の構成

- ① 上段：【各競技共通事項】選手の基本情報を記入します。

①	選手団名			選手団番号			個人番号			
②	フリガナ			③	性別	1 男 ・ 2 女				
	氏名			④	生年月日	昭和・平成・令和 年 月 日				
					年齢	満 歳（令和9(2027)年4月1日 現在）				
⑤	現住所	〒 -				TEL(自宅)				
						携帯電話				
⑥	身体障害者手帳	交付手帳	都 道 府 県 第 号 級	障がい名(手帳記載のとおり全文)						
		障がいの原因となっている傷病名等(脳性麻痺、脳出血、二分脊椎など具体的に)								
		視覚に障がいのある者のみ記入。矯正できない場合は「不可」に○。								
		視力	裸眼	右	左	矯正後	右	左	不可	
		更新状況(手帳の記載をもとに記入)				低身長の場合	身長 _____ cm	確認資料(添付するものに○)		
⑦	療育手帳	有	有効期限 () 年 () 月 ・ 更新不要				無	※知的障害で、療育手帳等のない者は、内容確認が必要。別添必要書類を提出すること	自己申告チェックシート添付	
⑧	障がいの分類	1 肢体 2 視覚 3 聴覚・平衡、音声・言語・そしゃく機能 4 知的 5 内部 ~~6 精神~~								
⑨	重複障がい	0 無	1 肢体	2 視覚	3 聴覚・平衡、音声・言語・そしゃく機能	4 知的	5 内部	6 精神		
		7 その他 ()								

- ② 下段：【競技別事項】障害区分や出場種目等について記入します。競技によって記入する内容が異なります。

3 各項目の記入要領

(1) 【各競技共通事項】

① 市町村名及び学校名

② 氏名、フリガナ：選手の氏名を上段にカタカナで、下段に漢字で記入すること。

大会プログラム等の印刷物に正確に表記する必要があることから、略字等に置き換えず「正確に」記入すること。

<記入例>

ミヤザキ	ケン
宮崎	剣

③ 性別：現在の戸籍上の性別を記載すること。該当する番号を○囲みする。

④ 生年月日、年齢：生年月日と令和9年4月1日現在の年齢を記入すること。

⑤ 現住所：郵便番号、現住所、電話番号を記入すること。

⑥ 身体障害者手帳

・手帳に記載されている「手帳の交付都道府県市（区）名」、「手帳の交付番号」、「等級」を記入すること。

・手帳に記載されている障がい名全文を省略せずに記入すること。

・手帳に記載されている障がい名だけでは障害区分が正確に判断できない場合があるので、障がいの原因となっている傷病名（外傷、病気）等を具体的に記入すること。

・視覚に障がいがある方は、手帳に記載されている右・左それぞれの裸眼および矯正後の視力を記入すること。矯正できない場合は、「不可」を○で囲むこと。

※陸上競技、水泳の低身長区分に出場する方は、身長の記載と別途確認資料を添付すること。

⑦ 療育手帳

知的障害の区分に出場する方のみ、手帳の「有」または「無」を○囲みすること。

・「有」に該当するのは、次のいずれかの場合

ア 既に療育手帳の交付を受けている

イ 参加申込時点で療育手帳の交付を申請中

・「無」に該当するのは、次の場合

療育手帳の交付を受けていないが、取得の対象に準ずる障害のある場合。なお、証明書等が必要となる

・手帳の「次回更新日」が経過していないか確認すること。

※陸上競技、水泳のダウン症区分に出場する方は、別途確認資料を添付すること。

⑧ 精神障害者手帳

卓球の精神障害区分に出場する方は、同様に精神障害者保健福祉手帳に関して記入すること。

⑧ 障がいの分類（卓球は⑨）

「主たる障がい」を「1」から「6」の中から一つ選び、その番号を○囲みすること。

取消線のある障がいに該当する場合は、当該競技に出場することができないので留意すること。

⑨ 重複障がい（卓球は⑩）

「⑧ 障がいの分類（卓球は⑨）」で記入した障害のほかに、重複する障がい（手帳記載分のみ）がある場合は、該当するものを○で囲み、「7 その他」の場合は（ ）内に障がい名を記入すること。

重複する障がい（手帳記載分のみ）がない場合は、「0 無」を○囲みすること。

(2) 【競技別事項】

- ・障害区分及び出場可能種目は競技によって異なることから、「〈別表1〉競技・種目および障害区分」を参照し、選択すること。
 - ・「個人情報取り扱いの同意」、「全国大会（宮崎障スポ）出場希望」、「全国大会出場経験の有無」、「保護者氏名」の各欄についても記載すること。
- なお、「保護者氏名」の記載については、参加者が18歳未満の場合に限り、実際に生活や世話、監護をしている立場の方も含むこととする。

⑭ 全国大会（宮崎障スポ）出場希望について、いずれかに○を付けてください。

全国大会の選手として選考されたとき、宮崎県代表選手団行動規範を遵守して
全国大会出場（派遣期間4泊5日）を【 希望する ・ 希望しない 】

【宮崎県代表選手団行動規範について】

別紙「第26回全国障害者スポーツ大会「日本のひなた宮崎 障スポ」の
個人競技への出場を目指す皆様へ」を確認してください。

- ・障害区分番号の選択に当たっては、下記を参考にすること。

全競技共通

- 1) 「肢体不自由」には、切断・機能障害、脊髄損傷等、脳原性麻痺が含まれる。
- 2) 脊髄損傷とは脊髄の損傷をいい、損傷部位により障害の程度が異なる。頸髄損傷は四肢に運動麻痺が生じ、胸髄損傷では体幹・下肢障害が出現する。
車いすを使用して競技をするのか、立位にて競技をするかで、区分番号が異なる。
- 3) 脳原性麻痺とは、「何らかの脳の機能障害により身体障害が生じたものの総称」で、脳性麻痺、脳血管疾患や頭部外傷後遺症等が含まれる。

陸上・水泳・卓球

- 4) 脳原性麻痺に出現する不随意運動とは、自己の意思によらず筋が収縮することによって生じる運動のこと。

陸上・ボッチャ

- 5) 走可能とは、両足が地面を離れ、身体に空間を跳んでいる時期があり、かつ両足がともに地面に接している時期がない連続した運動ができること。よって、走不能とは、この運動ができない場合をいう。

陸上・水泳・卓球

- 6) 座位バランスの判定について、背もたれのない座位の状態、両手の支えなく座ることができる場合は、「座位バランスあり」と判断する。

1 陸上競技

⑩ 障害区分

主たる障がい（「⑧障がいの分類」で記入した障がい）のうち、該当する区分を1つ選択すること。
詳細は、「〈別表1〉競技・種目および障害区分」を参照のこと。

≪障害区分の解説≫

「⑧障がいの分類」で選択した障がい

- 「1 肢体」の場合 → 1～17から選択
- 「2 視覚」の場合 → 18・19から選択
- 「3 聴覚・平衡、音声・言語・そしゃく機能」の場合 → 20
- 「4 知的」の場合 → 21・22
- 「5 内部」の場合 → 23

脳原性麻痺で車いすを使用して競技に参加する

- ・四肢に著しい可動域制限や協調運動障害がある場合 → 区分11
- ・上肢麻痺が軽度で、車いすハンドリムを瞬時に把持したり、ハンドリムをプッシュする際に肘関節を完全に伸展させることができる場合 → 区分13

脳原性麻痺で走可能な場合

- ・上肢に不随意運動を伴う場合 → 区分15
- ・上肢に不随意運動がなく、競技中に杖・歩行器を用いずに走ることが可能な場合 → 区分16

⑪ 障害区分確認事項

障害区分1～17（肢体不自由）に該当する場合は、該当する箇所（ア～ケ）を○囲みすること。

≪設問の解説≫

●ア～エについて：脳原性麻痺以外の方

【アについて】

- ・切断（欠損を含む）部位を記入すること。

【イについて】

- ・受傷部位を選択し、あわせて麻痺の程度や座位バランスについても必ず、確認・記入すること。

●オ～クについて；脳原性麻痺の方

- ・該当する項目に○をすること。

●ケについて

- ・日常生活で使用している補装具があれば、記入すること。ある場合は、常用の補装具と常用でないが併用する補装具を分けて記入すること。

⑪ 障害区分確認事項

「障害区分1～17の方」は、該当する箇所に○印を付け、該当事項をご記入ください。

ア	切 断	（ 部 位	）
イ	脊髄損傷	受傷部位	（ 頸髄 ・ 胸髄 ・ 腰髄以下 ）
		麻痺の程度	（ 完全 ・ 不完全 ）
			（ 四肢麻痺 ・ 両下肢麻痺 ）
		座位バランス	（ あり ・ なし ）
	頸髄の場合	①肘関節伸展と手関節掌屈が	（ できる ・ できない ）
		②手指把持能力が	（ あり ・ なし ）
ウ	脊髄損傷・脳原性麻痺以外の車いす使用（二分脊椎、骨・関節機能障害、切断など）の方で座位バランスが （ あり ・ なし ）		
エ	障害区分3・4・5（切断は除く）で、片足または両足で補装具なしで立つことが （ 可能 ・ 不可能 ）		
オ	脳原性麻痺で、上肢に中等度以上の不随意運動や協調運動障害が （ あり ・ なし ）		
カ	脳原性麻痺で、上肢の関節可動域に制限が （ あり ・ なし ）		
キ	脳原性麻痺で競技に車いすで参加する場合、ハンドリムを瞬時に把持したり、ハンドリムをプッシュする際に肘関節を完全に伸展させることが（できる・できない）		
ク	脳原性麻痺で、走ることが （ 可能 ・ 不可能 ）		
ケ	日常生活で使用している補装具（装具・車いす・杖など）が （ あり ・ なし ）		
	【あるの場合必ず記入してください】		
	●常用の補装具名	[]	
	●常用でないが併用する補装具名	[]	

⑫ 出場種目及び競技中に使用する補装具など

- ・「〈別表1〉 競技・種目および障害区分」を参照し、出場可能な種目から1つを選んで、希望欄に種目名と自己記録を記載すること。
- ・競技中に使用する補装具等について、「有」「無」のいずれかを○囲みし、「有」の場合は使用する補装具等の番号を補装具番号表から選んで記入すること。
補装具番号表に選択肢がない場合は、使用する補装具の名称を「19 その他」欄に記入すること。
- ・リレー種目に参加を希望する場合は必ず「有」に○囲みすること。ただし知的障害のみが対象。

《記載方法の解説》

●自己記録について

- ・時間の記入例 12分34秒56
※1/100秒の部分は「2桁」で記入
(例) 9秒05 → 9秒05
9秒5 → 9秒50
- ・距離の記入例 12m34cm

⑫ 出場種目 及び 競技中に使用する補装具等				
競技中に使用する補装具等 (有・ 無)			※有の場合、下記表より番号を記入	
希望順	種目名	自己記録	補装具番号	19 その他
第1希望	100m	12秒22		()
リレー希望	有・ 無	※有の場合、様式Aを提出		

補装具番号表			
歩行杖等	1 杖	2 松葉杖(1本)	3 松葉杖(2本)
	4 クラッチ(1本)	5 クラッチ(2本)	
車いす等	6 両手駆動	7 片手駆動	8 足駆動(前向)
	9 足駆動(後向)	10 片上下肢駆動	11 電動
義肢・装具等	12 投てき台	13 レーサー	14 椅子
	15 義手	16 義足	17 短下肢装具
その他	18 長下肢装具		
	19 その他		

《種目選択時の注意点》

- ・50m競走についてはスタンディングスタートのみとする。
- ・50m競走で使用する車いすは日常生活用とする。
- ・車いすで100m以上の競走種目に出場する場合、ヘルメットを着用して競技しなければならない。
- ・車いすで800m以上の競走種目に出場する場合、競技用車いす(レーサー)を使用しなければならない。

⑬ 特記事項

- ・特記事項がない場合は「1 特になし」を○囲みすること。
- ・フィールド競技とは、跳躍競技および投てき競技のことをいう。
- ・手話通訳と手書き要約筆記の希望については、いずれか1つを選択すること。
- ・介助者の入場を希望する場合は、「その理由」欄に介助者が必要な理由を具体的に記入すること。

〈参考〉

全国障害者スポーツ大会競技規則の解説 「第2部 第1章 陸上競技」から抜粋

第5節 介助者の役割

2 申請対象となる障害区分

申請対象は原則として区分番号 7、11、17、18、19 であるが、場合によっては区分番号 12、21、22 も対象となる。いずれの場合も申し込み時に理由を添えた申請が必要である。

また、特例として重複障害により上記区分に該当する障害があるが、上記以外の区分で参加申し込みをする場合は、事前申請により介助者の同伴が認められる。

2 水泳

⑩ 障害区分

主たる障がい（「⑧障がいの分類」で記入した障がい）のうち、該当する区分を1つ選択すること。
詳細は、「〈別表1〉競技・種目および障害区分」を参照のこと。

《障害区分の解説》

「⑧障がいの分類」で選択した障がい

「1 肢体」の場合 → 1～16 から選択

低身長での参加は 7 に限る

「2 視覚」の場合 → 17、18 から選択

「3 聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能」の場合 → 19

「4 知的」の場合 → 20、21 から選択

ダウン症での参加は 20 に限る

脳原性麻痺による四肢体幹機能障害で

・上肢の障害が著しい場合 → 11

・上肢の障害が軽度の場合 → 12

⑪ 障害区分確認事項

障害区分1～16に該当する場合は、該当する箇所（ア～ク）を○囲みし、該当事項を記入すること。

《設問の解説》

●ア～エについて；脳原性麻痺以外の方

【アについて】

・切断（欠損を含む）部位を記入すること。

【イについて】

・受傷部位を選択し、あわせて麻痺の程度や座位バランスについても必ず、確認・記入すること。

●オ～キについて；脳原性麻痺の方

・上肢の動きについて該当する項目に○囲みすること。

●クについて

・日常生活で使用している補装具があれば、記入すること。

ある場合は、常用の補装具と常用でないが併用する補装具を分けて記入すること。

⑪ 障害区分確認事項

「障害区分1～16の方」は、該当する箇所に○印を付け、該当事項をご記入ください。

ア	切 断	（ 部 位 ）	
イ	脊髄損傷	受傷部位	（ 頭 髄 ・ 胸 髄 ・ 腰 髄 以 下 ）
		麻痺の程度	（ 完 全 ・ 不 完 全 ） （ 四 肢 麻 痺 ・ 両 下 肢 麻 痺 ）
		座位バランス	（ ある ・ ない ）
ウ	脊髄損傷・脳原性麻痺以外の車いす使用（二分脊椎、骨・関節機能障害、切断など）の者で座位バランスが （ ある ・ ない ）		
エ	障害区分1～6の機能障害で、片足または両足で補装具なしで立つことが （ 可 能 ・ 不 可 能 ）		
オ	脳原性麻痺で、上肢に中等度以上の不随意運動や協調運動障害が （ ある ・ ない ）		
カ	脳原性麻痺で、上肢の関節可動域に制限が （ ある ・ ない ）		
キ	脳原性麻痺の片側障害でストロークは （ 両 上 肢 ・ 片 上 肢 ） で行う		
ク	日常生活で使用している補装具（装具・車いす・杖など）が （ ある ・ ない ）		
	【あるの場合必ず記入してください】		
	●常用の補装具名	[	]
	●常用でないが併用する補装具名	[	]

⑫ 出場種目

・「〈別表1〉競技・種目および障害区分」を参照し、出場可能な種目から第1～第2希望を選んで、希望欄に種目名・スタート方法及び自己記録を記入すること。ただし、希望種目が1つの場合は第2希望欄に斜線を引くこと。

・リレー種目に参加を希望する場合は、「4×50mフリーリレー」または「4×50mメドレーリレー」のいずれかに○囲みすること。

《記載方法の解説》

●自己記録の記入例 1分34秒56

※1/100秒の部分は「2桁」で記入

(例) 23秒05 → 23秒05

23秒5 → 23秒50

●スタート方法

・台上・台横・水中のいずれかを○囲みすること。

・スタート介助を必要とする場合は、「⑬特記事項」にて申請すること。

⑫ 出場種目				
2種目に出場希望 (する ・ しない)				
希望順	種目名	スタート方法	自己記録	
第1希望		台上 台横 水中		記録なし
第2希望		台上 台横 水中		記録なし
リレー希望		有 (4×50mフリーリレー ・ 4×50mメドレーリレー) ・ 無		
※有の場合、様式Bを提出				
※リレー時のスタート方法 (台上 ・ 台横 ・ 水中)				

⑬ 特記事項

- ・特記事項がない場合は「1 特になし」を○囲みすること。
- ・手話通訳と手書き要約筆記の希望については、いずれか1つを選択すること。
- ・障害区分20、21に該当する場合で、情緒不安定または種目の指示等により、競技エリアに同伴者の入場を希望される場合は、「その理由」欄に、同伴者が必要な理由を具体的に記入すること。場合によっては、内容等確認させていただきます。
- ・上記以外で競技エリアに介助者の入場を希望する場合、理由を具体的に記入すること。

⑬ 特記事項
下記の該当する番号に○印を付け、必要事項をご記入ください。
1 特になし
2 スタート時に競技役員(補助員を含む)による介助を希望
3 スタート時に許可された者による介助を希望
4 入退水時に競技役員(補助員を含む)による介助を希望
5 入退水時に許可された者による介助を希望
6 障害区分17・18の者で、ターンおよびゴール時に競技役員(補助員を含む)による合図棒等でのタッピングを希望
7 障害区分17・18の者で、ターンおよびゴール時に許可された者による合図棒等でのタッピングを希望
8 障害区分16の者で、浮具を使用
9 プールサイドでの移動のために、貸出用車いすの利用を希望
10 聴覚、音声・言語等に障害のある者で、手話通訳を希望
11 聴覚、音声・言語等に障害のある者で、手書き要約筆記を希望
12 視覚に障害のある者で、点字プログラムを希望
13 障害区分20・21の者および同等の障がい重複する者で、情緒不安定または種目の指示等により、競技エリア内に同伴者入場を希望 (その理由)
14 補助犬を同伴
15 申請対象外の者で、競技エリアに介助者の入場を希望 (その理由)
16 聴覚と視覚に障がいがあるため、競技エリアに通訳者、介助者の同伴を希望

3 アーチェリー

⑩ 障害区分

主たる障がい（「⑧障がいの分類」で記入した障がい）の該当する区分を1つ選択すること。

⑩ 障害区分			
主たる障害の該当する番号1つのみに○印を付けてください。			
肢 体 不 自 由	脳原性麻痺以外 で車いす常用	1	第8頸髄まで残存
		2	その他の車いす
	切断・機能障害	3	上肢障害
		4	下肢障害（椅子、車いす使用を含む）
		5	体幹
	脳原性麻痺	6	脳原性麻痺（椅子、車いす使用を含む）
聴覚・平衡機能障害、 音声・言語・ そしゃく機能障害		7	聴覚障害
内部障害		8	ぼうこう又は直腸機能障害

《障害区分の解説》

「⑧障がいの分類」で選択した障がい

「1 肢体」の場合 → 1～6から選択

「3 聴覚・平衡、音声・言語・そしゃく機能」 → 7

「5 内部」 → 8

脳原性麻痺以外による下肢障害で

・競技の時のみ車いすを使用する場合

→ 障害区分4

・日常的に車いすを常用している場合

→ 障害区分1または2

脳原性麻痺の方 → 全て障害区分6

⑪ 障害区分確認事項

障害区分1～6（肢体不自由）の方は、該当する箇所を○囲みし、該当事項を記入すること。

《設問の解説》

【アについて】

・切断（欠損を含む）部位を記入してください。

【イについて】

・該当する方を○で囲んでください。

【ウについて】

・日常生活で使用している補装具があれば、記入してください。

ある場合は、「常用の補装具」と「常用でないが併用する補装具」を分けて記入すること。

なお、長距離移動時のみ車いすを使用する場合は、常用とは言わない。

⑪ 障害区分確認事項	
「障害区分1～6の方」は、該当する箇所に○印を付け、該当事項をご記入ください。	
ア 切 断 (部位)	()
イ 脊髄損傷 (四肢麻痺 ・ 両下肢麻痺)	
ウ 日常生活で使用している補装具(装具・車いす・杖など)が (ある ・ ない)	
【ありの場合必ず記入して下さい】	
●常用の補装具名 [	]
●常用でないが併用する補装具名 [	]

⑫ 出場種目

- ・出場種目を1種目選び、自己記録を自己記録欄に記入すること。
- ・行射の向きについて、左右のいずれかを選択すること。

⑬ 得点記録および矢の回収

- ・得点記録および矢の回収の委託先について、希望する番号を1つ選択すること。

⑭ 特記事項

- ・特記事項がない場合は「1 特になし」を選択すること。
- ・手話通訳と手書き要約筆記の希望についてはいずれか1つを選択すること。
- ・障害区分1以外で、アシスタントの入場を希望する場合は、「その理由」欄に、具体的な理由を記入すること。

⑭ 特記事項	
下記の該当する番号や項目等に○印を付け、必要事項をご記入ください。	
1 特になし	
2 障害区分1で、アシスタントの入場が必要 (介助内容)	()
3 障害区分1以外で、特段の理由により競技場内に同伴するアシスタントの入場を希望 (行射時間外の介助(弓具の移動や車いす移動介助等)のみを行う場合を除く) (その理由)	
4 障害区分1及び3のリカーブボウ使用者で、手に補助具 (リリースエイド等の発射装置)使用を希望	
5 競技中に 車いす を使用	
6 競技中に 椅子 を使用	
7 競技中に マウスタブ を使用	
8 聴覚、音声・言語等に障がいのある者で、手話通訳を希望	
9 聴覚、音声・言語等に障がいのある者で、手書き要約筆記を希望	
10 補助犬を同伴	

4 卓球

⑪ 障害区分

主たる障がい（「⑧ 障がいの分類」で記入した障がい）の該当する区分を1つ選択すること。

⑪ 障害区分				
主たる障害の該当する番号1つのみに○印を付けてください。				
上肢	1	片上肢障害	脳原性麻痺 (脳性麻痺、 脳血管疾患、 脳外傷等)	10 車いす使用
	2	両上肢障害		11 杖または、松葉杖使用
下肢	3	片下腿切断または、片下腿不完全		12 上肢に不随意運動あり
	4	片大腿切断または、両下腿切断 片下腿完全または、両下腿不完全		13 上肢に不随意運動なし
	5	片下腿および片大腿切断 両大腿切断または、両下腿完全		14 片側障害
体幹	6	体幹	視覚障害	15 アイマスクまたは、 アイシェードあり
車脳 原性 常麻 痺、 以外 用で	7	第8頸髄まで残存		16 アイマスクまたは、 アイシェードなし
	8	座位バランスなし	聴覚・平衡機能障害、 音声・言語・そしゃく 機能障害	17 聴覚障害
	9	その他の車いす	知的障害	18 知的障害
			精神障害	19 精神障害

《障害区分の解説》

「⑧障がいの分類」で選択した障がい

「1 肢体」の場合 → 1～14 から選択

「2 視覚」の場合 → 15、16 から選択

「3 聴覚・平衡、言語・音声・そしゃく機能」の場合 → 17

「4 知的」の場合 → 18

「6 精神」の場合 → 19

下肢機能障害（切断を含む）で

・立位で競技を行う場合

→ 障害区分3～5

・競技中に車いすを使用する場合

→ 障害区分9

脳原性麻痺の方 → 障害区分10～14

⑫ 障害区分確認事項

障害区分1～14(肢体不自由)に該当する場合は、該当する箇所を○で囲みすること。

《設問の解説》

【アについて】

・切断（欠損を含む）部位を記入すること。

【イについて】

・麻痺の程度と座位バランスの状態を記入すること。

【オ～キについて】

・脳原性麻痺の方は、各項目を○囲みすること。

【クについて】

・日常生活で使用している補装具があれば、記入すること。ある場合は、「常用の補装具」と
「常用でないが併用する補装具」を分けて記入すること。

⑫ 障害区分確認事項	
「障害区分1～14の方」は、該当する箇所に○印を付け、該当事項をご記入ください。	
ア 切 断	(部位)
イ 脊髄損傷	麻痺の程度 (四肢麻痺・両下肢麻痺) (完全 ・ 不完全)
	座位バランス (あり・なし)
ウ 脊髄損傷・脳原性麻痺以外の車いす使用(二分脊椎、骨・関節機能障害、 切断など)の方で座位バランスが	(あり ・ ない)
エ 障害区分3～5(切断は除く)で、片足または両足で補装具なしで立つことが	(可能 ・ 不可能)
オ 脳原性麻痺で、上肢に不随意運動や協調運動障害が	(あり ・ ない)
カ 脳原性麻痺で、上肢の関節可動域に制限が	(あり ・ ない)
キ 脳原性麻痺で、走ることが	(可能 ・ 不可能)
ク 日常生活で使用している補装具(装具・車いす・杖など)が	(あり ・ なし)
【ありの場合必ず記入してください】	
●常用の補装具名	[]
●常用でないが併用する補装具名	[]

⑬ 出場種目

- ・出場希望種目を1種目選び、番号を○囲みすること。
- ・サウンドテーブルテニス（STT）への参加希望の場合は、「障害区分番号15」に限定される

⑭ 競技中に使用する補装具等

- ・障害区分1～14(肢体不自由)に該当する場合は、「有」「無」のいずれかを○囲みし、「有」の場合、使用する補装具の番号を○囲みすること。
- ・項目にない補装具を使用する場合は、名称を「12 その他 ()」内に記入すること。

⑮ 特記事項

- ・特記事項がない場合は、「1 特になし」を○囲みすること。
- ・ボールパーソンが必要な場合には、「試合中のボールパーソンを希望」を○囲みすること。
(STT 出場選手は「2」、STT 出場選手以外は「3」)
- ・手話通訳と手書き要約筆記の希望については、いずれか1つを選択すること。
- ・介助者の入場を希望される方は、「その理由」欄に、介助者が必要な理由を具体的に記入すること。

⑮ 特記事項	
下記の該当する番号や項目等に○印を付け、必要事項をご記入ください。	
1	特になし
2	STT 出場選手で、試合中のボールパーソンを希望
3	STT 出場選手以外で障がい等の理由により、試合中のボールパーソンを希望
4	競技中は使用しないが、招集から解散までの待ち時間や移動のために車いすを使用
5	聴覚、音声・言語等に障がいのある者で、手話通訳を希望
6	聴覚、音声・言語等に障がいのある者で、手書き要約筆記を希望
7	補助犬を同伴
8	視覚に障がいのある者で、点字プログラムを希望
9	特段の理由により監督・コーチ以外に競技場内に同伴(ただしベンチ入りは不可)する介助者の入場を希望
(その理由).....	
.....	

5 フライングディスク

⑩ 出場種目

「アキュラシー (番号1、2のうちいずれか1種目)」 「ディスタンス (番号11～14のうちいずれか1種目)」 の計2種目までで、希望する番号に○をつけ、自己記録欄に自己記録を記入すること。

〈自己記録の記入例〉

アキュラシーの記入例 → 7投

ディスタンスの記入例 → 37m14cm

⑪ 競技区分

- ・希望する競技区分 (座位か立位) を選び、○囲みすること。
- ・「座位」は車いすやいすに座った状態で競技すること、「立位」は立った状態で競技することをいう。

⑫ 特記事項

- ・該当する番号を○囲みすること。
- ・特記事項がない場合は「1 特になし」を○囲みすること。
- ・手話通訳と手書き要約筆記の希望については、いずれか1つを選択すること。
- ・介助者の入場を希望される方は、「その理由」欄に、介助者が必要な理由を具体的に記入すること。

6 ボッチャ

⑩ 障害区分

該当する番号を1つ選択すること。

⑩ 障害区分			
主たる障害の該当する番号1つのみに○印を付けてください。			
障害分類	区分番号	障害区分	競技スタイル
肢体不自由	1	多肢切断 両下肢完全 両上肢不完全および両下肢不完全	立位
	2	第6頸髄まで残存	座位
	3	第7頸髄まで残存	座位
	4	第8頸髄まで残存	座位
	5	多肢切断	座位
	6	四肢麻痺で車いす常用または、使用	座位
	7	けつて移動	座位
	8	片上下肢で車いす常用または、使用	座位
	9	その他走不能	立位
	10	電動車いす常用	座位

＜障害区分の解説＞

競技スタイルが【立位】

- ・「切断・機能障害」の場合 → 1
- ・「脳原性麻痺」の場合 → 9

競技スタイルが【座位】

- ・「脳原性麻痺以外」の場合 → 2～5
- ・「脳原性麻痺」の場合 → 6～8
- ・「電動車いす常用」の場合 → 10

脳原性麻痺の方で車いす操作方法

- ・両上肢で駆動 → 6
- ・下肢のみで駆動 → 7
- ・片上下肢で駆動 → 8

⑪ 障害区分確認事項

該当する箇所（ア～ク）を○で囲みすること。

障害の状態によっては、参加資格なし（出場できない）場合もあるため、各項目を必ず確認すること。

＜設問の解説＞

【アについて】

- ・切断（欠損を含む）部位を記入すること。

【エについて】

- ・頸髄損傷の方は、各項目を○囲みすること。

【オ～キについて】

- ・脳原性麻痺の方は、各項目を○囲みすること。

【クについて】

- ・日常生活で使用している補装具があれば、記入すること。
ある場合は、「常用の補装具」と「常用でないが併用する補装具」を分けて記入すること。

⑪ 障害区分確認事項

下記の該当する番号や項目等に○印を付け、必要事項をご記入ください。

ア	切断（部位）	
イ	多肢切断で義足等を使用し、立位で競技が（できる・できない）	
ウ	両下肢完全麻痺で長下肢装具を使用し、立位で競技が（できる・できない）	
エ	頸髄損傷 麻痺の程度（完全・不完全）	
	①肘関節伸展と手関節掌屈が（できる・できない）	
	②把持能力が（ある・ない）	
オ	脳原性麻痺で、上肢に不随意運動や協調運動障害が（ある・ない）	
カ	脳原性麻痺で、上肢の関節可動域に制限が（ある・ない）	
キ	脳原性麻痺で、走ることが（可能・不可能）	
ク	日常生活で使用している補装具（装具・車いす・杖など）が（ある・ない）	
	【ある場合必ず記入してください】	
	●常用の補装具名 []	
	●常用でないが併用する補装具名 []	

⑫ 出場種目・部門

競技スタイルを1つ選び、番号を○囲みすること。

「⑩ 障害区分」で選択した競技スタイルで相違が無いよう注意すること。

⑬ 競技中に使用する補装具等

「有」の場合は、希望種目毎に使用する補装具等の番号を記入すること。

義肢・装具等を選んだ場合は、使用する補装具の名称を「その他の内容」欄に記入すること。

※競技スタイル「立位」で出場する者で、移動や待機時に「車いす」や「椅子」を使用する場合は、「⑭ 特記事項」にて回答すること。

⑭ 特記事項

- ・特記事項がない場合は「1 特になし」を○囲みすること。
- ・手話通訳と手書き要約筆記の希望については、いずれか1つを選択すること。
- ・スポーツアシスタントまたはランプオペレーターが同伴する場合は、該当項目を○囲みすること。
- ・投球補助具で、グローブやポインター【棒】を使用する場合は、該当するものを○囲みすること。

〈参考〉

全国障害者スポーツ大会競技規則の解説 「第2部 第6章 ボッチャ」から抜粋

第3節 スポーツアシスタント・ランプオペレーター

- (1) 移動したり、方向を変えたり、自分で投球準備することが機能的に困難な者にはスポーツアシスタントが、ランプ使用者にはランプオペレーターが認められる。
- (2) スポーツアシスタント及びランプオペレーターは、移動すること、方向を変えること、投球することに対して補助するものであって、選手の意思を離れて競技に介入することは許されない。

7 ボウリング

⑩ 自己記録

アベレージを記入すること。

⑪ 特記事項

- ・特記事項がない場合は「1 特になし」を○囲みすること。
- ・手話通訳と手書き要約筆記の希望については、いずれか1つを選択すること。

⑫ シューズ・ボールについて

各項目の「1 持参する」または「2 借用を希望する」のいずれかを○で囲み、借用を希望する場合は、ハウスシューズのサイズ（cm）、ハウスボールの重さ（ポンド）を記入すること。

※ ハウスシューズは、15～32cmまで、ハウスボールは、5～14ポンドまでとします。

ボールを持参する場合は、動線等スペース確保のため、1名につき最大2個とします。